Let's try English! Vol.216

Message FROM
Nathan John Clinch
（中学校ALT）

What is a Jack-o'-lantern?

Hello everyone. Today I am going to talk about jack-o'-lanterns. What is a jack-o'-lantern? In the middles ages Jack was a very common male name. It was so common that it was used as another word for man. There are a number of phrases for example 'jack of all trades' or 'jack-in-the-box' that show this. The '-o'-' is a shortening of 'of the'. The same as in 'o'clock'. So 'jack of the lantern'.

In the 17th century, 'Jack-o'-lantern', was just used to mean a man with a lantern or a night watchman. Around the same period, 'jack-o'-lantern' was also used to describe swamp gas or 'willow the wisps' too. So how did jack-o'-lanterns become what we know today? Samhain is a pre-Christian festival similar to Obon that was celebrated on the same day as Halloween. During the festival of Samhain, the spirits of the dead and the supernatural beings were believed to walk the earth. Halloween was a Christianization and syncretic processing of that old pagan festival. The custom of carving lanterns for Samhain began in Ireland and Britain. These lanterns were made with turnips or mangelwurzels that were hollowed out and often carved with grotesque faces. They were said to represent spirits or supernatural beings or were used to ward off evil spirits from one's home. We don't know what they were called before but they were called jack-o'-lanterns from the 18th century onward. So how did these lanterns gain that name? There are many stories about how.

An turnip lantern from Ireland

Here is one of the stories:

There was a man called Stingy Jack. He invited the devil for a drink. Jack didn't want to pay himself, and convinced the devil to change into a coin that could be used to pay. The devil did so, but Jack ran out without paying and kept the devil-coin in his pocket with a silver cross so that the devil couldn't change back to his original form. Jack eventually let the devil free but made him promise that he wouldn't seek revenge on Jack and wouldn't claim his soul when he died. When Jack died, because he had been sinful, God would not let him into heaven, but also the devil, keeping his promise, wouldn't let Jack into hell. Instead, the devil gave him a burning coal to light his way and sent him into the night. Jack put the coal into a carved-out turnip and is cursed to roam the earth forever.

You can see the story ends with stingy Jack holding a carved lantern and thus how it gained its name. Jack is, at this point, the 'Jack' of the lantern. At some point the lantern itself started to be called the jack-o'-lantern. Scottish and Irish immigrants brought the carving of jack-o'-lanterns to America where the pumpkin replaced the turnip. Pumpkins are easier to carve and make larger lanterns. Other modern customs of Halloween were begun in the US too but that topic is for another time. Have a wonderful autumn time and stay warm!

こんにちは皆さん。今日はジャック・オ・ランタンについてお話します。ジャック・オ・ランタンとは何でしょうか？中世では、ジャックはとてもありふれた男性の名前でした。非常にありふれていたので、「男」の別の言葉としても使用されました。例えば、「どんな仕事でもできるのジャック」＝「何でも屋」や「箱の中のジャック」＝「びっくり箱」などの表現が数多くあります。「-o'-」は「ofthe」の短縮形です。「～ o'clock」の「-o'-」と同じ意味です。ですから、ジャック・オ・ランタンは「ランタンのジャック」を意味します。

17 世紀には、「ジャック・オ・ランタン」はランタンを持った男性か夜警を意味するものとして使われていました。同時代に、「ジャック・オ・ランタン」は沼地ガスや「鬼火」を表すのにも使われました。では、ジャック・オ・ランタンはどのようにして今日私たちが知っているものになったのでしょうか？サウィンはキリスト教以前の祭りで、お盆に似ており、ハロウィンと同じ日に祝われました。サウィン祭の間、死者の霊や超自然的な存在が地上を歩き回ると信じられていました。ハロウィンは、その古い異教の祭りをキリスト教化して融合したものでした。サウィンのためにランタンを彫る習慣はアイルランドとイギリスで始まりました。このランタンはカブかマンゲルヴルツェル（ビート類）をくり抜いて作られ、多くの場合グロテスクな顔が彫られていました。霊や超自然的な存在を表し、あるいは家から悪霊を追い払うために使用されたと言われていました。以前は何と呼ばれていたかはわかりませんが、18 世紀以降はジャック・オ・ランタンと呼ばれるようになりました。

このランタンはどのようにしてジャック・オ・ランタンという名前になったのでしょうか？それについてはたくさんの物語があります。

その中の一つの話をさせてください。

「ケチのジャック」という男がいました。彼は悪魔を飲みに誘いました。ジャックはお金を払いたくなかったので、悪魔を説得して支払いに使えるコインに変えてもらいました。悪魔はそうしましたが、ジャックはお金を払わずに走り出し、悪魔が元の姿に戻れないように、悪魔のコインと銀の十字架をポケットに入れておきました。ジャックはやっと悪魔を解放しましたが、ジャックに復讐しないことと、ジャックが死んだときに魂を要求しないことを約束させました。ジャックが死んだとき、彼は罪を犯していたので、神は彼を天国に入れてくれませんでした。しかし悪魔も約束を守り、ジャックを地獄に行かせませんでした。その代わりに、悪魔は彼に道を照らすために燃える石炭を与え、彼を夜の中に送り込みました。ジャックはカブを彫ったランタンにその石炭を入れて、地球を永遠にさまよう呪いをかけられています。

物語はケチのジャックが彫刻されたランタンを持っているところで終わり、「ジャック・オ・ランタン」がどのようにしてその名前が付けられたのかが分かります。この時点では、ジャックはランタンの「ジャック」です。いつからか、そのランタン自体が「ジャック・オ・ランタン」と呼ばれるようになりました。スコットランドとアイルランドの移民がジャック・オ・ランタンを彫る慣習をアメリカに持ち込み、カブの代わりにカボチャが使われるようになりました。

カボチャは彫刻しやすく、より大きなランタンを作れるのです。他の現代のハロウィーンの慣習もアメリカで始まりましたが、その話題はまた別の機会に。暖かくして、素敵な秋をお過ごしください。

エコールみよた Clip Board

20周年 複合文化施設 まなびの館 エコールみよた

浅間縄文ミュージアム（32）8922

交通記念館「D51機関車」冬季閉鎖のお知らせ

交通記念館に展示している「D51機関車」の今年度の公開が11月19日で終了しました。令和６年３月まで交通記念館を冬季閉鎖します。

来年度は４月からの公開を予定しています。公開日が決まりましたら、広報やまゆり「町民カレンダー」にてお知らせいたします。

D51-787号機

年末年始休館のお知らせ

浅間縄文ミュージアムは、12月28日（木）から令和６年１月３日（水）まで年末年始休館をいたします。年明けの１月中旬から冬季企画展も開始予定ですので、皆さまのお越しをお待ちしております。

町立図書館（32）0800

年末年始休館のお知らせ

図書館は12月28日（木）から令和6年1月5日（金）まで休館します。休館に伴い、返却ポストは12月27日（水）午後6時30分から年明け1月5日（金）午前9時まで使用休止しますのでご注意ください。

12月14日（木）から12月27日（水）の間は、貸出期間が３週間になります。どうぞご利用ください。

※12月21日（木）は館内整理日のため休館です。（ほんわかひろばのみ実施します。）

12月の図書館の予定

●おはなしひろば・冬
12月2日（土）午後2時～３時
場所：エコールみよた　大会議室
サンタさんに会えるかも?!

●ちいさいおともだちのおはなし会
12月14日（木）午前10時30分～11時

●小さな朗読会
12月20日（水）午前11時～11時30分

●ほんわかひろば（親子向け）
12月21日（木）午前10時30分～正午　※休館日

（広告欄）

農薬・農業用資材卸
株式会社 信陽堂薬局
●本　　社／御代田町栄町　☎0267-32-3223
●佐久営業所／佐久市小田井中金井　☎0267-68-1175
●長野営業所／長野市川中島町　☎026-284-4275

お歳暮にご利用ください！ 全国発送

麺工房 やまいし 栄町店
Tel.32-2022
Fax.32-3966